

平成27年度 美郷町立邑智中学校 学校評価表(自己・学校関係者評価)評価書

○学校関係者評価委員
○校長

安田兼子 樋ヶ昭義 垣田光子 岩谷知広 福間かおる
錦織健一郎

		自 己 評 価						学校関係者評価				
学校経営の重点	具体目標	達成のための方策	評価指標	生徒	保護者	職員	評価	結果の分析および改善方策等	評価	自己評価に対する意見等		
基本的な生活習慣の確立	・基本的な生活習慣の確立を図る	・望ましい生活習慣の大切さを指導する機会を継続してとる	望ましい生活習慣に関わる指導を全校や学年部で継続して行った。	3	2	4	3	「ノーメディアの日」の取組が3年目となり、この日だけとはいう意識は、毎回の生徒・保護者アンケートの記述からも感じられる。インターネットなどメディア接触についても、毎年のメディア講演会などにより生徒の注意意識は高まってきた。さらに基本的な生活習慣のレベルアップを導くためにも家庭での実践が向上するように、家族を巻き込んだ実践となることを目標とした。そのためにも、日常の望ましい生活習慣の定着が生徒の基盤となることを、保護者の皆さんへ問題意識化させていきたい。挨拶はこれまでのようによい評価の意見を聞くことができています。反面校内での言葉遣いでは配慮を要する面があり、道徳、学級活動や生徒会活動で具体的に問題点を意識できる全校的な取組を実施していきたい。	3	○「ノーメディアの日」の取り組みは、小中で継続してほしい。さらにこの活動が広がるように家庭への働きかけも続けてほしい。 ○中学生の街頭でのあいさつは、元気よく、大きな声でよくしている。中学生らしいふるまいができる基本的な生活指導をこれからも積み重ねてほしい。		
			生徒アンケート「『ノーメディアの日』を意識して取り組んだ」									
	・明るく、さわやかなあいさつ、言葉遣いを行う	・部活動指導や生徒会による呼びかけ等の推進	あいさつや言葉遣いについて、部活動での指導や生徒会からの呼びかけ・取組を行った。	4	4	4	4		生徒の授業に対する前向きに取り組まなければならない意識は、昨年度より高くなってきている。教員の授業改善の努力も、研究授業の実施により効果を上げていると考える。さらにタブレットの導入などによる授業展開が、生徒への授業への関心を少しずつ高めていると考える。通知表の「関心・意欲・態度」のCの数も昨年と比べ少なく授業への姿勢も改善してきている。しかし、課題の提出の遅れや忘れ物などの自ら進んで授業に取り組む姿勢は弱く、テスト結果や評価結果に授業態度が反映しない傾向がある。授業の充実だけでなく、成績に結びつく一連の学習方法や自らの学習欲を高める授業展開を工夫していく必要がある。	4		
			生徒アンケート「あいさつ、言葉遣いを意識して生活した」									
学力の向上	・日々の授業を充実させる	・各教科の特色を生かした授業を推進する。	全教員が最低1回は校内研究授業を実施した。	4	3	4	4	学習習慣の定着を目指して、定期的な学習時間のアンケート調査や定期テスト期間中の放課後学習、家庭学習課題の確認などを行った。アンケート調査ではテスト前の家庭学習時間の伸びは見られるが、日常の家庭学習にあまり変化は見られなかった。保護者評価では昨年度より家庭学習時間の習慣化の結果が上昇したが、「起床時間、就寝時間、家庭学習開始時間の決定」の結果は下がってしまった。まだまだ主体的な判断による家庭学習の実施になっていない面がある。日々の家庭学習の継続が自己の能力伸長につながることを理解できるように、個別でのアドバイスの機会を増やしていく取組を行いたい。また、学習支援館との連携も工夫していきたい。		4	○学習内容を理解しようと意識して取り組む気持ちが高まってきたと感じられる。学校での授業での工夫やタブレットを使った学習など授業の内容を少しでも分からせようとする気持ちが生徒に伝わっていると思う。これから変わっていく入試制度などについても積極的に伝えてもらうと生徒、保護者が変わっていくと思う。	
			生徒アンケート「わたしは一生懸命に授業に取り組んだ」									
		・楽しく、わかりやすい授業を推進する。	通知表の「関心・意欲・態度」にCがついている生徒がいない。	3	3	4	3		3	3		
			生徒アンケート「授業は楽しく、わかりやすい」									
	・学習習慣の確立と家庭学習の習慣化を図る	・学習習慣形成に向けた全体指導、個別指導を行う	学習習慣形成に向けて、教科担当や学年部で、全体指導や個別指導に取り組んだ。	2	2	4	3		3	3	3	○県学力調査の結果から生徒と保護者が学習方法について振り返りができる取り組みがされ、親と一緒に子供も自分の学習方法の問題点を考えることができた。これからのこのような取り組みを続けていけば、家庭学習の様子も変わっていくと思う。特に、生徒一人一人の個別の家庭学習方法のアドバイスがより効果があるように感じた。
			生徒アンケート「起床時間、就寝時間、家庭学習開始時間を決めて生活している」									
	・家庭学習定着につながる課題を出す	・家庭学習定着につながる課題を出す	学習習慣定着に向けての取組を各教科や学年部で継続して行った。	2	3	4	3		3	3	3	
			生徒アンケート「平日の家庭学習を1時間以上行った」									
・授業における学校図書館の活用を通じた言語活動の充実を図る	・授業における学校図書館の活用を推進する	図書館を活用した授業を各教科年間1回以上行う	2	2	2	2	2	2	2	○学校での図書に触れることは増えてきているようだが、家庭でも読書が広がるように、「みさと本の森」と連携し、図書館を使つての授業も活発にしてほしい。		
		生徒一人あたりの貸し出し冊数を昨年度以上にする										
人権・同和教育の推進	・保護者や地域・関係機関との連携に基づいた人権・同和教育の推進	・保護者とともに人権・同和教育を推進する	学校の人権・同和教育の取組について保護者に伝える機会を持った	3	4	3	3	昨年度に比べ保護者アンケートの結果は全体的にはよくなってきているが、学年によって差が見られる。保護者とのつながりを学年保護者会などの開催で改善していきたい。浜原隣保館との連携、関連機関講師による授業実践なども計画的に実施することができている。指導して頂いた外部講師の皆さんからも生徒の学習姿勢を肯定的に評価して頂くことができた。ただ保護者をこのような学習の場へもっと参加して頂けるように、情報提供の工夫をしなければならぬと考える。昨年度よりも少しでも多くの保護者と学習の機会が増えるように学年ごとのPTA活動などとして連携した取組を考えてきたい。	3	○子供が生活している地域に出でいき、学校外の方々と学習することは、学習内容をさらに身近な問題として感じることもできる。このような学習を継続して取り入れながら、保護者にもこのような学習の情報を根気よく伝えていただければ、家庭へも広がっていくと思う。		
			保護者アンケート「わが子のよりよい成長に向けて学校と連携して取り組むことができた」									
		・地域の方や関係機関と連携しながら人権・同和教育を進める	地域の方や関係機関と連携して人権・同和教育に関する学習を行った	4	4	4	4		4	4	4	
			行事の際に「学校と連携して充実した学習を進めることができたか」を関係機関に確認する									
	・人権学習、同和問題学習の充実	人権学習、同和問題学習を計画的に実施する。	各行事のねらいの中に、人権・同和教育の視点からのねらいが設定されている。	4	4	4	4		4	4	4	○人権学習から自分の生き方を子供たちも考えることができていると思う。学校だけなどの子供の感想から成長の一端を感じることができ、今後もこのような子供の気持ちや考えを、たくさん情報提供してほしい。
			生徒アンケート「人権に関する学習を通してよりよい生き方について考えることができた」									
	・生徒支援の充実	・情報の共有を図り、組織的な対応を実施する。	生徒の課題を早期に焦点化し、学年などを中心に組織的に対応する。	3	3	4	3		3	3	3	
			生徒アンケート「自分の良いところや改善しなければいけないところをアドバイスされた」									

特別支援教育の推進	・全職員で取り組む特別支援教育を推進する	・特別支援を要する生徒への支援に全職員で関わる	校内就学指導委員会が定期的開催され、組織的に実態把握や生徒の支援に取り組んだ。 職員アンケート「特別支援教育に全職員で当たった」			4	4	個々の生徒の学習活動から必要な学習支援の状況の把握に努め、ケース会議や委員会の実施に計画的に取り組んだ。生徒の困り感の把握とその困り感の解消に向けた対応を全職員が共通理解しながら、継続的に指導を続けていくことができた。ここにこそサポーターやIT授業による課題を抱えた生徒への学習支援や通級指導の活動などにより少しずつではあるが効果をあげている。ただ、課題を抱える生徒や個々の課題の増加に比べて、支援体制が追従できない面もあり、職員のより効率的な指導の在り方を常に工夫していく姿勢を持ち続けていく必要がある。	4	○変化していく入試制度などに応じられるように先生方の準備も大変であると思うが、個々の子供に少しでも細かく対応していく支援体制を続けてほしい。
	・個々の生徒の実態を踏まえた指導、支援を工夫する	・特別支援教育部会を設置し、実態把握と支援に組織的に取り組む	「個別の指導計画」「個別の支援計画」を作成し、職員の共通理解のもと指導・支援にあたった。 生徒アンケート「学習でわからないときや困ったときに先生にいていねいに対応してもらった」	4	3	4	4			
積極的な生徒指導の推進	・共感的な人間関係を育む	・共感的な人間関係を育む行事や活動を計画的に実施する	共感的な人間関係を育む活動を学年や全校で月1回程度のペースで実施した。 生徒アンケート「誰とでも仲良く接することができた」	4	4	3	4	生徒会スローガン「創り出そう 笑顔あふれる 邑智中」をもとに、生徒会活動を中心に「あいさつ運動」、「ふれあいタイム」、「人権集会」など邑智中の温かい集団づくりに生徒だけでなく、職員が一緒になって取り組むことができた。体育祭や文化祭、部活動など生徒主体の取組を全面に、立案、計画、そして実行を生徒たちが自ら活動していくという流れを大切にしていけることができた。各行事のアンケートなどにおいても、よい評価を得られており、生徒たちの反省にも前向きな意見の記述が多く見られた。生徒アンケート「授業や行事で自分を認めてもらったと感じている」の結果は、昨年度より上がっており、今後も職員が多くの生徒の活動場面で適切な評価を伝えていく姿勢を継続していく必要がある。また、集団づくりにスクールカウンセラーの助言や支援、客観的な人間関係調査の結果などを積極的に生かしていきたい。	4	○多くの行事で子供たちも意欲的に頑張っている姿を見ることができたと思う。子供たちが学校生活を安心して楽しく生活していけるように、これまでの取り組みを継続して実施し、子供たちと先生方がたの関係がさらに深まっていくことを期待したい。
	・自己決定の場面を確保する	・授業や行事、部活動において、自己決定の場面をできるだけ確保する	職員アンケート「生徒が授業や行事、部活動において、自己決定する場面を確保するように心がけた」 生徒アンケート「自分で考えて行動することができた」	4	4	4	4			
	・生徒が自己存在感を味わえるようにする	・生徒を肯定的に評価する機会をできるだけ多くとる	職員アンケート「生徒の評価に際しては、肯定的評価を重視するよう心がけた」 生徒アンケート「授業や行事で自分を認めてもらったと感じている」	3	3	4	3			
家庭、地域との連携・協力	・地域の力を活用した教育活動を展開する	・学習の充実に向け地域の方の協力を得る機会を持つ	地域の教育力を生かした教育活動を学期1回以上持った。 生徒アンケート「地域の方と一緒に学習や活動をして楽しかった」	3	4	4	4	職場体験学習、三瓶登山、石見銀山やなしお街道学習、郷土料理や朝食・弁当づくり学習など、地域の方々に指導者に各学年を通じて積極的な体験活動が実施できた。人権・同和教育や食育、性教育など3年間をかけての計画的な活動においても外部講師との連携した学習活動となるように行うことができた。修学旅行での地域PR活動、暑中見舞い・年賀状活動、夏休み中のサマーボランティア活動、地域生徒会奉仕活動など中学生として地域に貢献できる活動も地域の協力を得ながら実施することができ、生徒たちも充実した達成感を得ることができた。町駅伝、産業祭など部活動の一環として地域活動を意識した取組が実施できた。これらの取組の様子や生徒の意識を家庭、地域へ「学校だより」、学校HPで積極的に伝える広報活動に努力した。特に学校HPでは、本年度新たにその日の「学校のニュース」、「今日の献立」など日々の様子が少しでも伝わるように継続したHP更新を行っている。	4	○地域を生かした学習を積極的に取り入れられていると感じる。このような活動での子供たちの様子や感じたことが、より多く保護者や地域へ伝わっていくように情報発信を引き続き大切にしていきたい。
	・生徒が地域の一員としての自覚を持てる場づくりを行う	・中学生が地域に貢献する機会を持つ	中学生が地域に貢献する活動を学期に1回以上持った。 生徒アンケート「学校の活動を通して、地域の人に喜んでもらうことができた」	4	4	4	4			
	・「学校だより」を通じた開かれた学校を実現する	・「学校だより」を毎週発行し、家庭の学校教育への理解を深める	「学校だより」を週1回発行する。 保護者アンケート「学校だより」等を通して学校の様子がよくわかった」	4	4	4	4			
自己評価総合所見	<ul style="list-style-type: none"> 学力の向上を目指して、学習規律の確立と家庭学習の習慣化が課題となっている。生徒のアンケート値の低さからも自らの学習意欲、学習の達成感の不足が感じられる。適切な学習課題の設定と課題の達成確認、生徒の家庭学習の成果が実感できる授業実践など、授業と自主的な家庭学習がつながっていく学習指導法の改善を図る。図書館を使った学習、タブレットなど教育機器などを使った効果的な指導の研究を深めたい。生活、学習の基盤となる家庭生活の改善にも、家庭の協力を得られるように連携を図っていく必要がある。 特別支援教育の視点による生徒の支援姿勢、積極的な生徒指導の姿勢を継続し、生徒の自己存在感、自己肯定感を高める指導場面を充実させ、生活態度や学習姿勢へ改善が波及していくような職員全体の取組を図っていく。 									
学校関係者評価総合所見	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習の習慣化や家庭生活の改善、そして、学校での授業中の姿勢や態度など学力向上の基盤となることを明確にして、小中を通じて継続的に指導を行ってほしい。また、家庭に対しても学力向上の基盤となる活動に協力できるように、情報を提供する機会を積極的に設定してもらいたい。タブレットなどの活用も子供たちの学習に積極的に取り入れてほしい。 いじめなどの把握を継続し、子供の変化に対して早期に対応できる体制を維持してほしい。このような子供の変化を家庭にも状況が伝わるように積極的な情報提供をしながら、家庭との信頼をより深め、連携を確実にしてほしい。 									
学校関係者評価を受けて	<ul style="list-style-type: none"> 国や県の学力調査などの分析と対応を確実にし、日常の学習活動に生かして行くように心がける。個々の生徒の課題を明確にし、生徒自身に学習態度の改善を促し、自ら課題を改善していこうとする態度を定着させていく。その基盤となる家庭での学習を確実にするためにも、家庭と連携した取り組みを工夫したい。また、小中が継続した学習指導ができるように公開授業、交流活動や情報交換を密にし、タブレットを利用した効果的な授業を継続して実施していきたい。 いじめや問題行動など、アンテナを高くはり、常に詳細な現状把握に心がける。年2回のQU調査や毎学期の個別での教育相談、そして学期末の保護者面談を大切に、日常の生徒観察による情報交換も充実させていきたい。現状分析と対応活動を学年や分掌ごとに実施し、全職員が共通理解して取り組めるように情報交換を活発に行う。 									

評価	基準	
4	80%以上の達成度	目標を達成できた
3	60%以上80%未満の達成度	概ね目標を達成できた
2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった
1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった